

テーマは「水稻の収穫量（令和6年産）」

東北6県の収穫量は全国の約3割

令和6年産水稻の収穫量（東北6県合計）は209万1,000tで、全国合計の収穫量の28%を占めています（図1）。

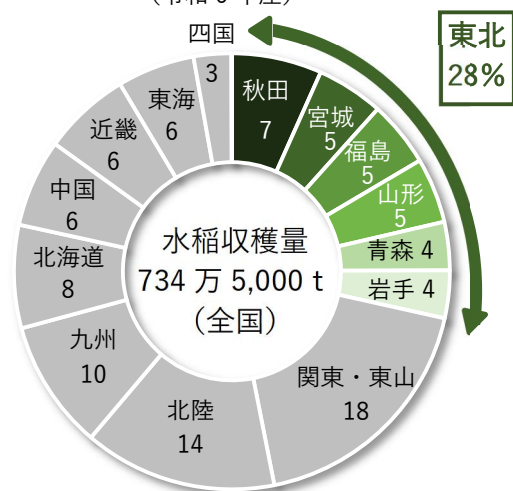
これを県別にみると、秋田県、宮城県、福島県、山形県が全国ランキングの3位から6位を占めるほか、青森県が10位、岩手県も11位といずれの県も上位となっています（表）。

図1 水稻収穫量の農業地域別割合（令和6年産）

表 水稻収穫量の上位都道府県（令和6年産）

単位：t

順位	都道府県	収穫量
1	新潟	622,800
2	北海道	562,400
3	秋田	490,000
4	宮城	366,100
5	福島	356,800
6	山形	354,500
7	茨城	338,800
8	千葉	287,900
9	栃木	286,200
10	青森	264,200
11	岩手	258,900
12	富山	189,000
13	長野	187,900



注1）沖縄県は0%。

2）構成割合は、単位未満をラウンドしているため、合計が100にならない場合がある（以下同じ）。

注：収穫量は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である（以下同じ）。

Vol.27 [令和6年12月]

「まふナビ東北」では、各種政府統計調査結果や行政データ等を活用して分析した東北農業の実態に関する分析データをお届けします。

農林水産省

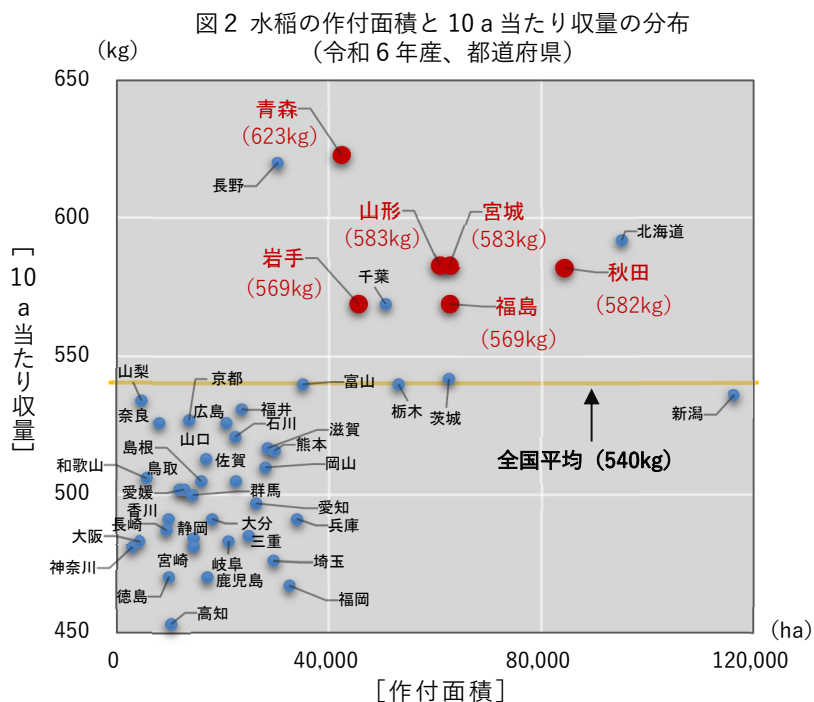
本分析は、令和6年産水稻の収穫量(全国)(令和6年12月10日公表)及び令和6年産水稻市町村別統計(東北)(12月20日公表)の調査結果データを基に作成しています。

東北6県は作付面積規模、収量水準ともに全国トップクラス

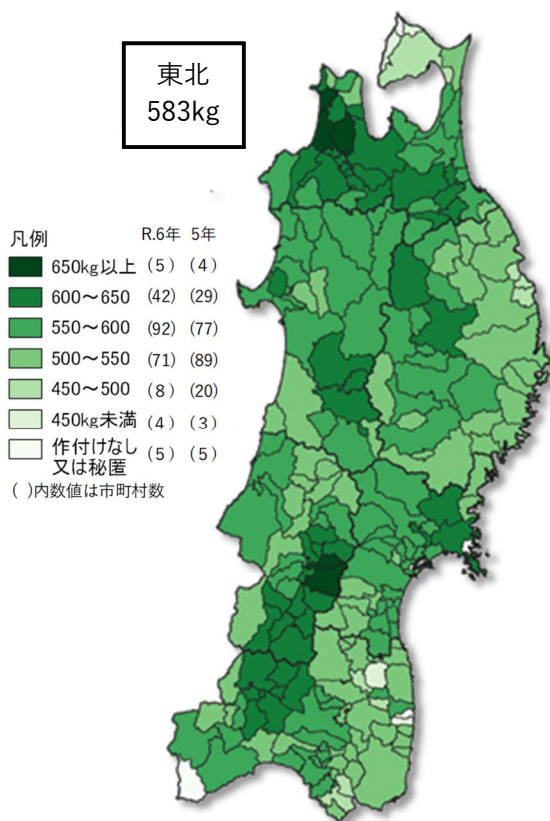
東北6県は、いずれも4万haを超える水稻作付面積規模ながら、10a当たり収量も全国平均より大幅に高くなっており、青森県は623kgで全国ランキング第1位、他の5県も10位以内となっています（図2）。

また、東北6県の市町村別10a当たり収量をみると、青森県津軽地域、山形県村山地域、福島県会津地域の市町村の収量水準が高くなっています（図3）。

図3 水稻の10a当たり収量階層分布（令和6年産、東北、市町村別）



注：作付面積は子実用、10a当たり収量は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である（以下同じ）。





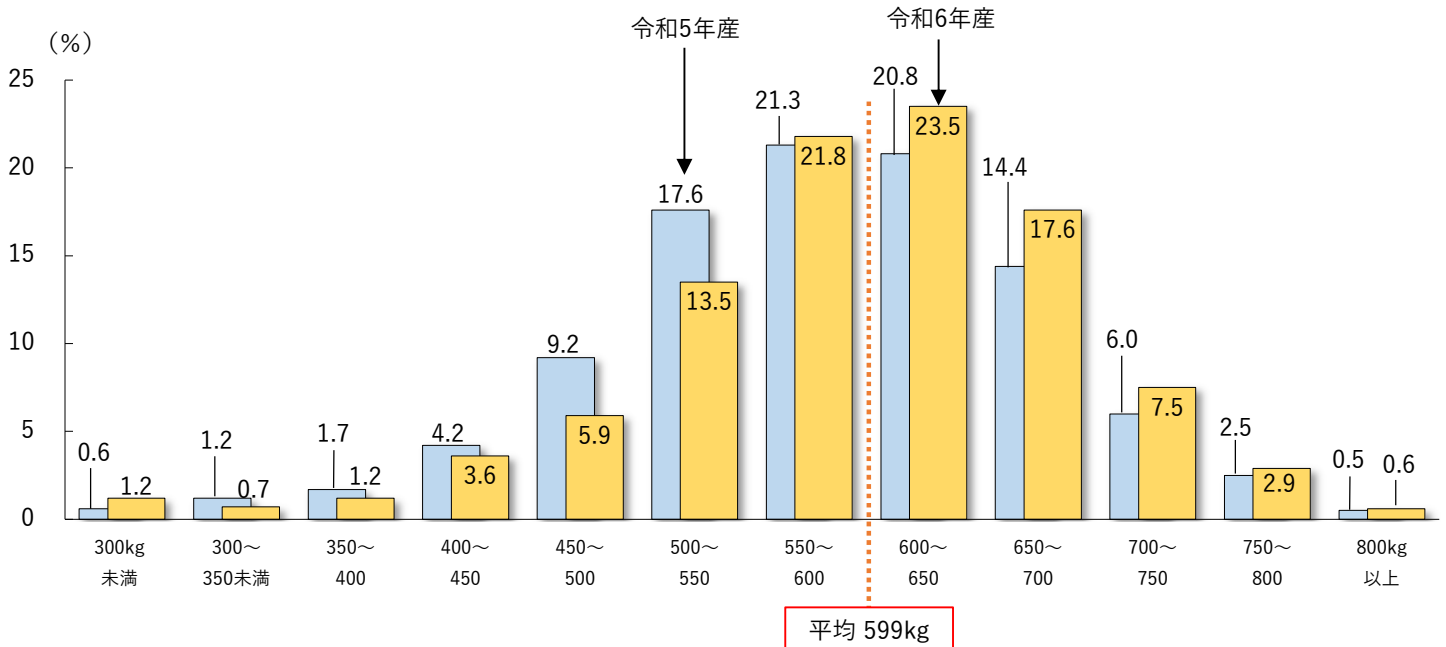
10a 当たり玄米重の分布状況（水稻作況標本筆）

令和6年産水稻収穫量調査では、東北6県合計で1,610筆の作況標本筆を設置して調査を実施しました。

この作況標本筆の10a 当たり玄米重の分布状況をみると、東北6県の平均（599kg）に近い筆数の割合が高くなっていますが、300kg未満の筆から800kgを超える筆まで幅広い10a 当たり玄米重の筆が含まれています。

また、令和6年産水稻10a 当たり玄米重（東北6県平均）は599kgで前年産より15kg増加しており、10a 当たり玄米重の分布状況を前年産と比べると、収量水準が高い筆数の割合が高くなっています（図4）。

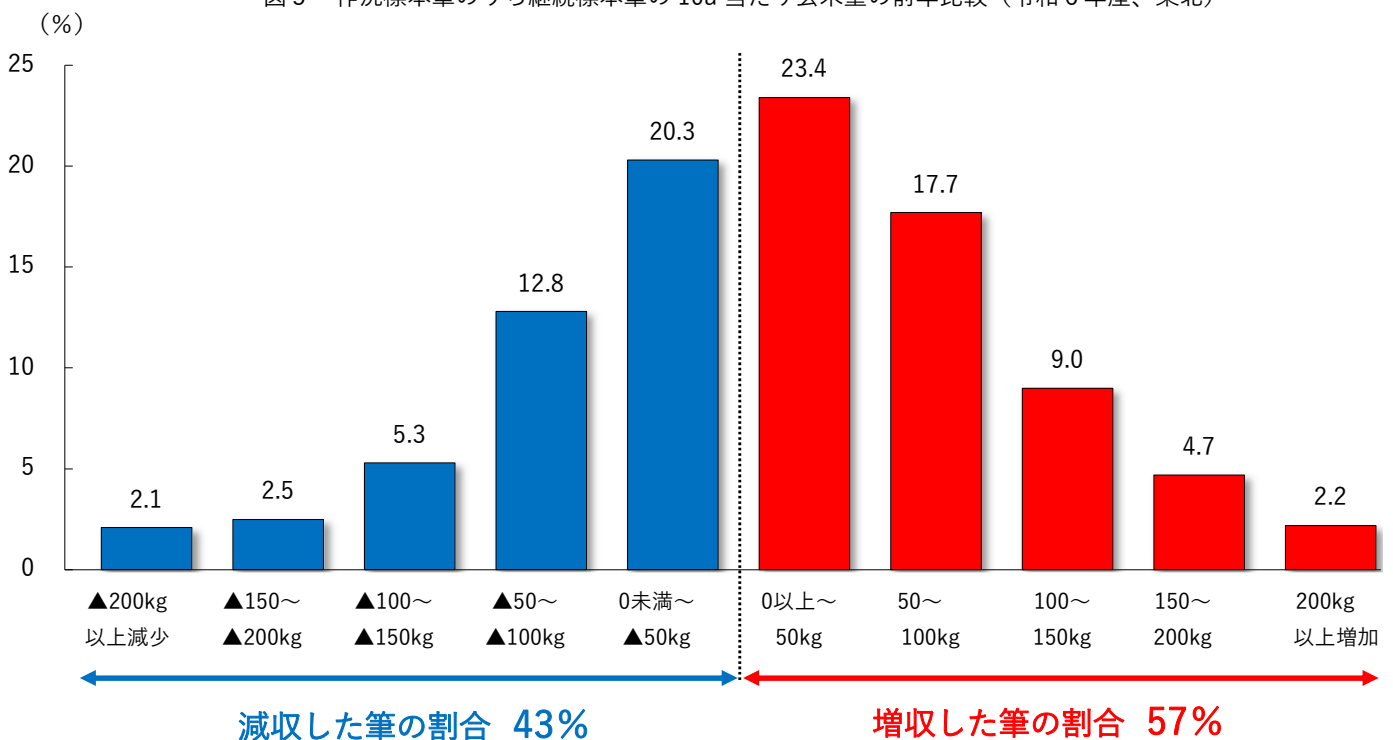
図4 水稻作況標本筆の10a 当たり玄米重分布状況（東北）



10a 当たり玄米重の前年比較（水稻作況標本筆）

令和6年産水稻の作柄（東北6県）は、作況指数103の「やや良」となりましたが、作況標本筆1,610筆のうち前年から継続して本年も調査を行った1,236筆について、各々10a 当たり玄米重を当該筆の前年産と比べると、前年産より増収した筆の割合は57%となっており、43%の筆では前年産より減収しています（図5）。

図5 作況標本筆のうち継続標本筆の10a 当たり玄米重の前年比較（令和6年産、東北）



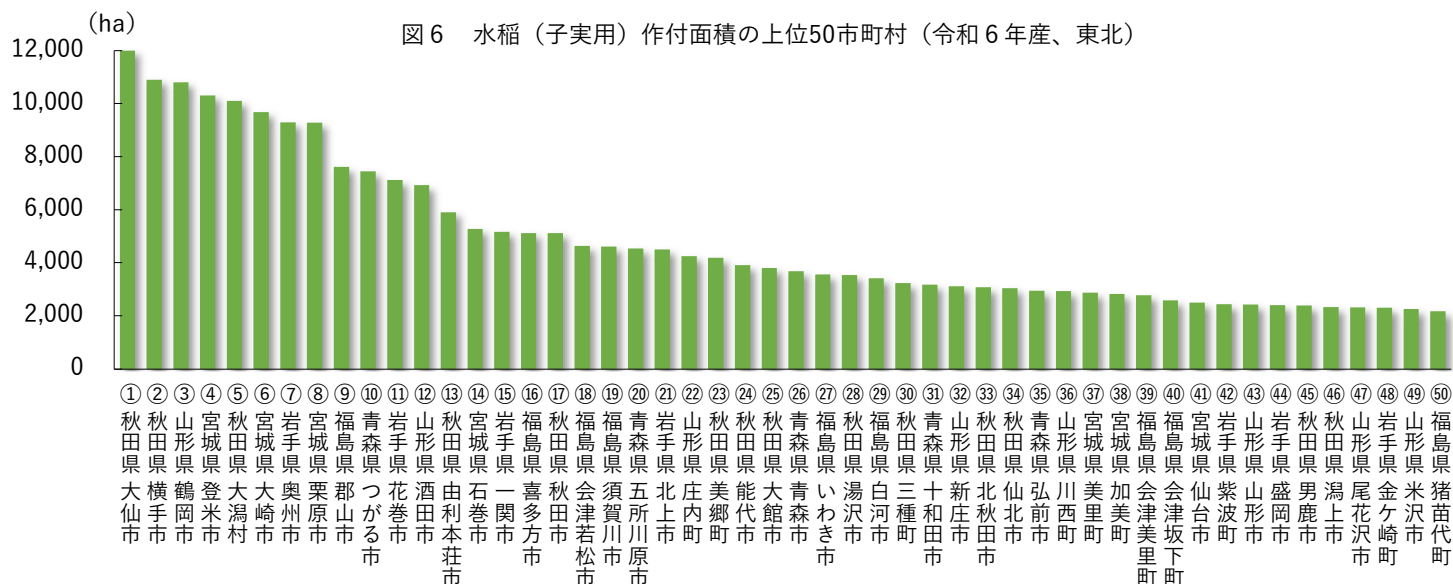


市町村別作付面積 — 第1位は秋田県大仙市の1万2,000ha —

東北6県の市町村別水稻作付面積のランキングをみると、第1位は秋田県大仙市1万2,000haで、上位5市村（大仙市、横手市、鶴岡市、登米市、大潟村）の作付面積は1万haを超えています。

また、各県で第1位となった市町村をみると、青森県がつがる市（東北第10位）、岩手県が奥州市（同7位）、宮城県が登米市（同4位）、山形県が鶴岡市（同3位）、福島県が郡山市（同9位）となっています。

なお、上位50市町村にランクインしている市町村数を県別にみると、秋田県が14市町村、福島県が9市町、山形県が8市町、岩手県及び宮城県が7市町、青森県が5市となっています（図6）。

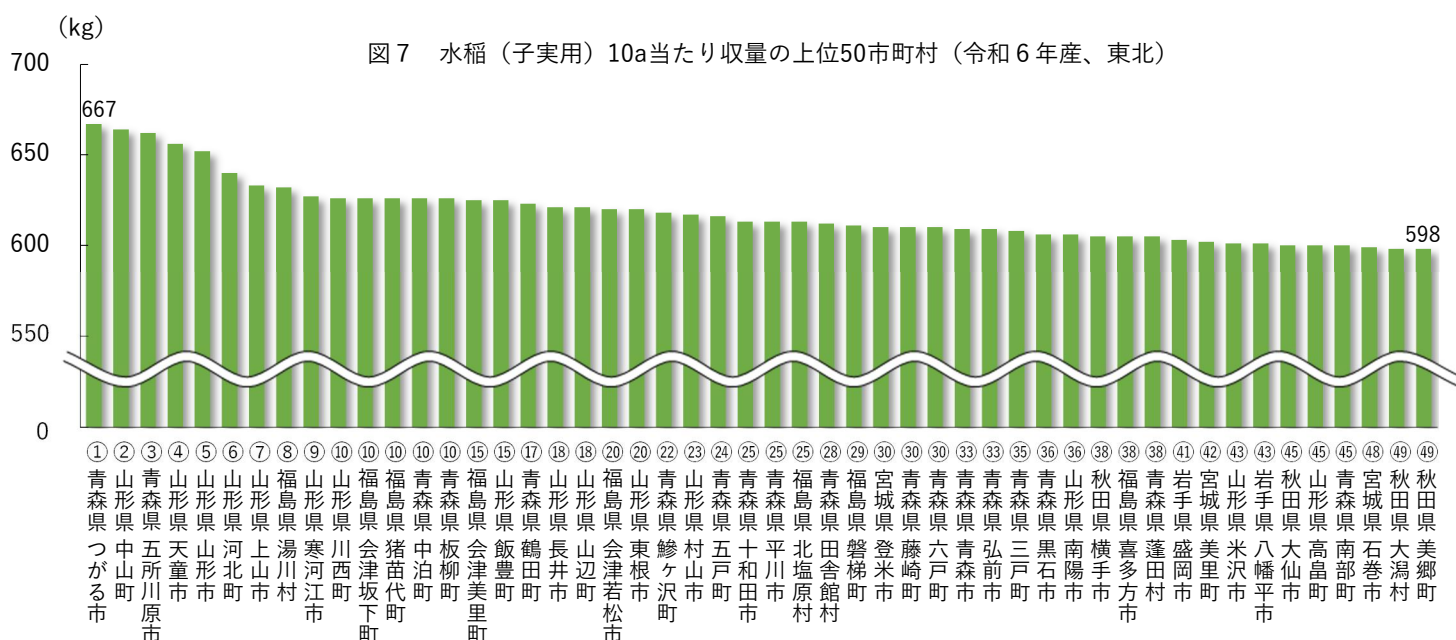


市町村別10a当たり収量 — 第1位は青森県つがる市の667kg —

東北6県の市町村別10a当たり収量のランキングをみると、第1位は青森県つがる市667kgで、上位5市町（つがる市、中山町、五所川原市、天童市、山形市）は650kgを超えています。

また、各県で第1位となった市町村をみると、岩手県が盛岡市（東北第41位）、宮城県が登米市（同30位）、秋田県が横手市（同38位）山形県が中山町（同2位）、福島県が湯川村（同8位）となっています。

なお、上位50市町村にランクインしている市町村数を県別にみると、青森県が18市町村、山形県が15市町、福島県が8市町村、秋田県が4市町村、宮城県が3市町、岩手県が2市となっています（図7）。

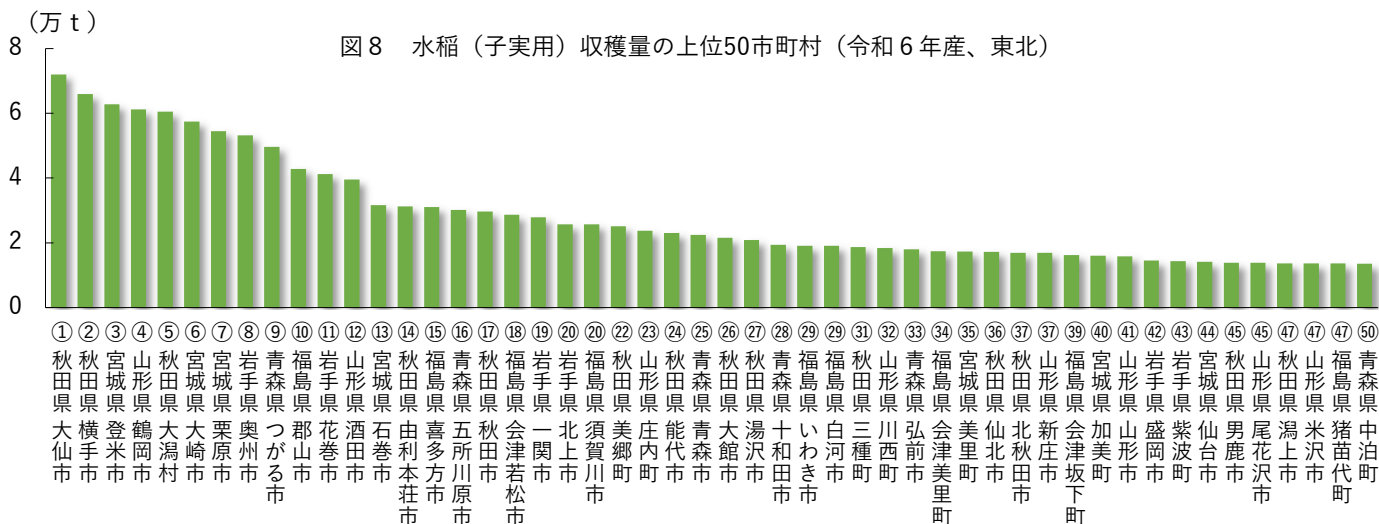


市町村別収穫量 — 第1位は前年に引き続き秋田県大仙市 —

東北6県の市町村別収穫量のランキングをみると、第1位は前年に続いて秋田県大仙市7万2,000tで、東北6県内の市町村の中で唯一7万tを超えています。

また、各県で第1位となった市町村をみると、青森県がつがる市（東北第9位）、岩手県が奥州市（同8位）、宮城県が登米市（同3位）、山形県が鶴岡市（同4位）、福島県が郡山市（同10位）となっています。

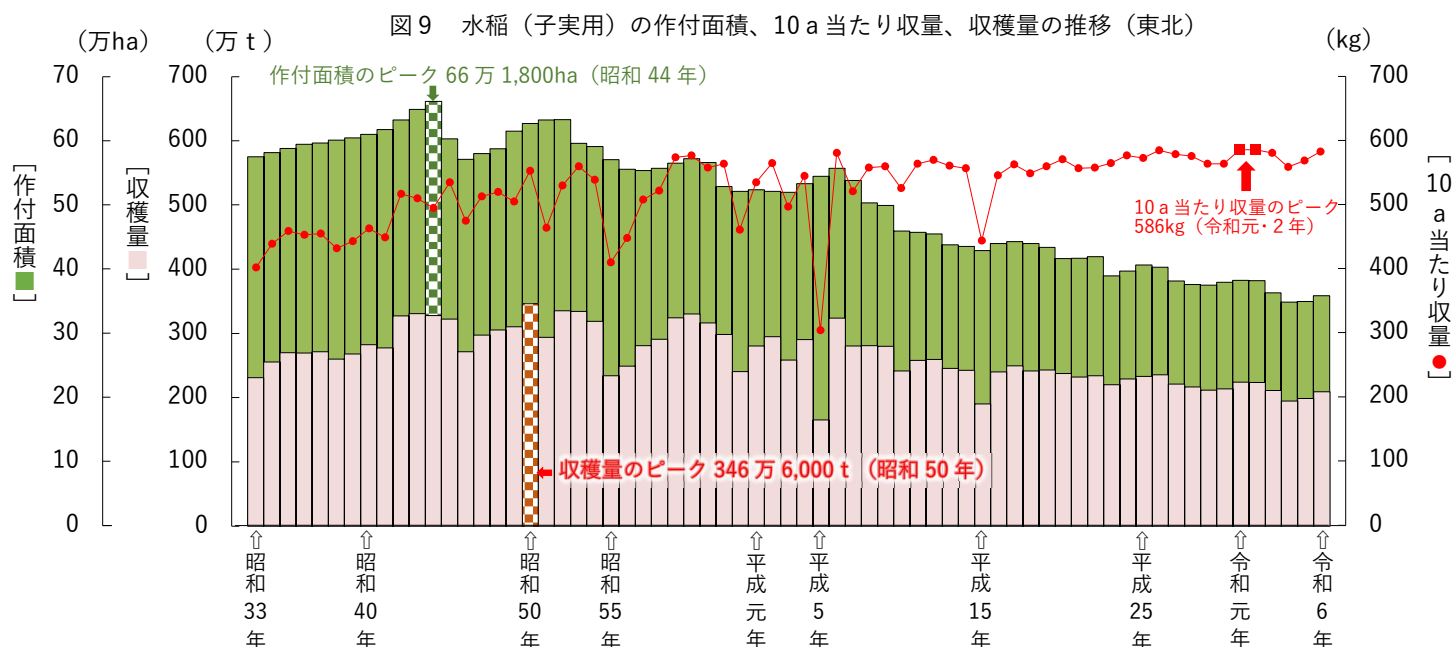
なお、上位50市町村にランクインしている市町村数を県別にみると、秋田県が14市町村、福島県が9市町、山形県が8市町、宮城県が7市町、青森県及び岩手県が6市町となっています（図8）。



水稻の作付面積、10a当たり収量、収穫量の推移（東北6県）

東北6県合計の水稻作付面積は昭和44年の66万1,800ha、収穫量は昭和50年の346万6,000tがそれぞれのピークとなっています（模様付き棒グラフ参照）。

また、10a当たり収量は、平成15年以前は冷害の影響を受けて低くなる年がありましたが、近年は冷害の影響が少なく増加傾向にあり、令和元年及び2年は586kgで、これまでで最も高くなっています（図9）。



-お問合せ- 農林水産省東北農政局統計部統計企画課 電話：022-745-9378

水稻の作付面積、収穫量、市町村別データ、用語解説など「作物統計作況調査（水陸稲）」の詳しい情報（公表資料）はこちらをご覧ください。



東北農政局ホームページ https://www.maff.go.jp/tohoku/stinfo/kekka/sakumotu/sakkyou_kome/index3.html